

Topics

裾野市でリノベーションまちづくり講演会開催
講師が地域の特性を活かしたまちづくりの重要性訴える

2月26日、裾野市で地域住民向けのリノベーションまちづくり講演会を開催し、市民らおよそ50人が参加しました。



講師は、奈良県東吉野村でリノベーションまちづくりに取り組む坂本大祐氏。「小さなまちで描くこれからの働き方・暮らし方」というテーマで講演を行いました。

坂本氏は約20年前、大阪から東吉野村へ移住。「奈良県南部の山あいにある人口約1300人の小さな村で、かつては林業で栄えたが、産業の衰退とともに人口減少が進んできた地域。面積の大部分を山林が占め、高齢化が進む中で、地域に新しい人の流れを生み出す取組を進めてきた」とし、「働く場所を自由に選べるデザイナーやフリーランスなどに着目した、クリエイターが集まる地域をつくる『クリエイティブビレッジ構想』を提案し、彼らが活動しやすい環境を整えることで、新しい人の流れをつくることを目指した」と、自身の活動を紹介しました。

その中で坂本氏が意識しているのは、『来て欲しい人材を明確にすること』と『その人たちが魅力を感じる場を作ること』。

中でも、拠点として2015年に開設された、古民家を改修したコワーキングスペース「オフィスキャンプ東吉野」は、仕事場として利用できるだけでなく、コーヒースタンドも併設されており、地域住民や訪問者が気軽に立ち寄れる交流拠点となっているといいます。

取組の結果、これまでに多くのクリエイターやフリーランスが村を訪問し、2015年からの10年間で来訪者は1万人超、コワーキングスペース利用者は約3000人。「その中から約150人が村に移住している」と、1つの成果を説明しました。

現在では、デザイナーや写真家、プログラマーなど、さまざまな職業の人が村で活動し、移住した人たちがそれぞれの得意分野を生かした新しい取組を始めて、本好きの夫婦が私設図書館を開いたり、家具職人とパティシエの夫婦が工房とケーキ店を始めたたりするなど、地域に新しい活動が生まれていると、小さなまちで起こった変化を伝えました。

その上で、小さなまちでもまちづくりは十分に可能であるとの考えを示し、「鍵は『最初の人選』と『エリアの絞り込み』」と自論を展開。

「初期段階で関わる人材は、『一緒に暮らしたいと思える人』を意識的に選ぶことで地域の雰囲気や形づくられ、その後の人の流れや信頼の連鎖につながる。また、取組は半径200メートルほどの範囲に集中させることで、点ではなく面的な広がりを生み出せる」と説明しました。

最後に坂本氏は、「大きく始める必要はない。小さく始め、地域の特性を生かしながら積み重ねていってほしい」などと、それぞれの地域で一步を踏み出すことの大切さを伝えました。

裾野市リノベーションまちづくり担当：有村ひとみ氏コメント

「坂本氏から「良いものをそのまま真似するのではなく『裾野らしさ』を追求し、ないものねだりではなく『あるもの探し』をしていこう」とアドバイスをいただけたと受け取っています。まずはまちにダイブしながら裾野らしさをとことん追求し、裾野ならではのリノベーションまちづくりに取り組んでいきたいと思えます。」

裾野市では、市内のリノベーションまちづくりの第一歩として、夏頃にリノベーションスクールが開講される予定です。